

旭川永嶺高新聞

2016
April
卯月



Hokkaido
Asahikawa
Eiryo High School
Newspaper

校訓

礼 仁 智

創刊記念号

発行所:北海道旭川永嶺高等学校新聞局
北海道旭川市永山町3丁目
北海道旭川永嶺高等学校内4F
TEL (0166)-47-6006
FAX (0166)-47-6109
発行責任者
林 絢斗 (2-1 局長)

新聞局では、現在局員を募集しています。新聞を発行した時の達成感は大変なものがあります。ぜひ新聞づくりに興味のある人は4階学習室2の隣の居室まで！

新聞局員大募集

ようこそ永嶺高校へ

新任の教職員より一言



内藤 佳和校長

一校内外を問わず、いつも清々しい挨拶を交わしてくれる、礼儀正しい生徒ばかりです。学習・部活動と多種多様な才能を思う存分発揮していただき、旭川に永嶺あり！といわれる学校づくりを目指してまいります。



岸田 麻衣子先生

「みなさんとすばらしい永嶺物語を創りたいと思っています。協力してがんばりましょう。」



大澤 照昭先生

「永嶺高校は新しい学校です。一緒に頑張らしましょう。」



斎藤 有美子主任主事

「この永嶺高校でたくさんの方達と思い出を作ってください。」

旭川永嶺高校開校

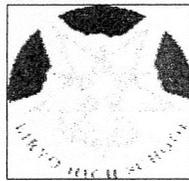
新たなスタート

旭川永嶺高校が開校した。本校は旭川七間口の学校として、凌雲高校と旭川東栄高校が統合再編された。八日午前、始業式、そして新

れ、普通科単位制の十名の教職員の着任式が行われた。始業式で内藤佳和校長先生から「新たな学校の先駆者となって実りある学校生活を送ってほしい」と挨拶があった。午後から記念すべき第一回入学式が挙行された。入学式に先立っての開校式では北海道教育委員会の鶴羽佳子委員が開校宣言をし、校旗が校長先生に授けられた。

までの二七六名の生徒が各担任に先導され入場、一人ひとりが呼名されるとハッキリとした声で返事をし、新たな生活への決意が感じられた。校長先生は式辞の中で「両校の伝統を受け継ぎ進取の気概を持って生活して欲しい」と述べた。

新たな校章と校歌は次の通りである。



校章のデザインは凌雲高校卒業生の渡辺由樹氏によるデザインで、校章は校訓の「智」「仁」「礼」を表した3つの星が重なったメインビジュアルとなった。おひら、大雪山連峰に囲まれた旭川の大地で常に高嶺を目指し、未来という山頂で輝いてほしいという意味が込められている。下から伸びている2枚の葉は生徒

「永嶺高校スタートの年です。それぞれの目標達成に向かってがんばってください。」

「人生の土台を築く高校生活です。全力で！」

「心を一つにして永嶺高校の伝統を創つていこう。」

「この永嶺高校でたくさんの方達と思い出を作ってください。」



北海道旭川永嶺高等学校 開校式・第一回入学式

記念すべき第一回入学式で式辞を述べる内藤佳和校長

「永嶺高校スタートの年です。それぞれの目標達成に向かってがんばってください。」

「人生の土台を築く高校生活です。全力で！」

「心を一つにして永嶺高校の伝統を創つていこう。」

「この永嶺高校でたくさんの方達と思い出を作ってください。」

「この永嶺高校でたくさんの方達と思い出を作ってください。」

「この永嶺高校でたくさんの方達と思い出を作ってください。」

「この永嶺高校でたくさんの方達と思い出を作ってください。」



牛久保 琢誠先生

「1年1組副担任」
「よろしくお願ひします。」



稲葉 克己事務局長

「永嶺高校スタートの年です。それぞれの目標達成に向かってがんばってください。」



伊丸岡 圭一先生

「2年3組副担任」
「人生の土台を築く高校生活です。全力で！」



羽野 聡先生

「2年1組副担任」
「英語が苦手だな、という生徒は単語リストでいい点を取ることからがんばってください。精一杯がんばるのでもよろしくお願ひします。」



山田 訓之先生

「3年3組副担任」
「とにかく、分かりやすい数学の授業をめざします！」



吉野 泰正先生

「3年2組副担任」
「心を一つにして永嶺高校の伝統を創つていこう。」

三十三年の歴史に幕を閉じた旭川凌雲高校。同時に旭川凌雲高新聞も廃刊となりました。しかし、新設校として永嶺高校が開校し、その記念すべき時に永嶺高新聞を発行できることをとてもうれしく誇りに思います。これからも頑張って発行して参りますので、どうぞよろしくお願ひします。

凌雲高校新聞局の先輩たちの残した伝統を受け継ぐという意味でもコラム上豪語を不定期ではありますが掲載する予定です。

創刊によせて
初代局長 林 絢斗